

Title	南亮三郎著 マルサス評伝：その生誕二百年の記念に
Sub Title	
Author	白井, 厚
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.7 (1966. 7) ,p.802(138)-
JaLC DOI	10.14991/001.19660701-0138
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660701-0138

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

であろう。(有信堂・昭和四一年三月刊・A
5・三〇八頁・九〇〇円)

—小松 隆二—

南 亮三郎著

『マルサス評伝』

—その生涯二百年の記念に—

近代人口理論の父といわれるT・R・マルサスが生まれてから本年は二百年にあたるので、日本人口学会がマルサス資料展やマルサスについてのシンポジウムを行い、人口学研究会は論文集「マルサスと現代」を出版した。人口学説の権威である南氏のこの著は、こうした企ての一つとして、また氏の人口学体系のIVとして出版されたもので、氏の前著「人口原理の確立者——トマス・ロバート・マルサス」(昭和一九年)にもとづきこれを大はばに改訂した、わが国で唯一の本格的なマルサス評伝である。

その内容は、その生涯、その時代、初版人口思想、後版人口思想、経済思想、マルサス論争、マルサスと現代、にわかれる。この書の

一三八 (八〇二)

を言えば、私の体系はマルサスのうえに立脚している」(序)といわれるように、全体としてはマルサス擁護で、生涯二百年の記念のためか、マルサスに対する厳しい批判がなく、評伝の面が薄れたのが惜しまれる。社会主義経済学の側からの厳しいマルサス批判を併せ読むべきであろう。(千倉書房・昭和四一年二月刊・A5・本文二五二頁・ほかにマルサスおよびその夫人、長女のカラー写真、序、索引などを含む・一三〇〇円)

—白井 厚—

一つの特徴は、著者が昭和三六年と四十年の二回にわたってマルサスの旧地をめぐる、それにもとづいてマルサスの伝記を詳細に調べたことであろう。その家系から説き起して、ロバートの生地 Rookery, Wotton Parish 教会の両親の墓地、牧師補に就任したといわれる Albury 教会、「人口原理」出版後最初の経済学教授となった Haileybury の East India College の後身 Haileybury College、遺体が葬られた Bath Abbey, 兄 Sydenham 方の子孫 Wright 島の Robert Maltus 氏などをたずね、マルサスの誕生日を確かめたり、マルサス家保存の文書を調べたり、誠に興味深い。そしてマルサスの「人口原理」の構造、ゴドウィンとの論争、「経済学原理」などを詳しく紹介し、人口論の獨創性、社会主義者その他の反対論、経済学上の寄与、マルサスと低開発国、先進国の人口問題、マルクス主義との対決などにも触れ議論を展開している。ここでは最近の関連した諸研究も多数平易に紹介されていて、マルサスおよび彼に関連した諸問題の全貌を知るにまことに貴重なものである。ただ著者自身が、「ほんとう